

Essay

Sapiarc.com

2012年4月10日(2012-03)

バベルの塔

このところ、世の中の人々の意見が合わないことが多くなっている。原発をどうするかはその最たる例だ。原発反対派は即時廃止または停止継続を叫ぶばかりで、それ以外の措置について話し合おうとはしない。日本では、新しい原発を作ることは論外のような状況になっている。それだけでなく、現存の原発を停止のままにしておいて、エネルギー需給のバランスは保てるのか、火力発電に切り替えれば当然電気料金は上がるが、それは止むを得ないものとするのか、二酸化炭素の排出量増大にどう対処するのかなどについて、総合的見地に立った方針が見えなくなっている。今後、再生可能エネルギーの供給を増やすとしても、1基で100万キロワット以上もの出力をもつ原発の代替とすることは容易ではない。

使用済みになった原発を完全に撤去するには数十年かかるとされている。現存する原発が発電しなければ、燃料のウランが巨大なエネルギーを持ち続けるので、撤去はもっと難しいだろう。だから、発電して、できるだけウランのエネルギーを減らす方が得策だという考えがあっても不思議ではない。しかし、こういう議論ができる状況ではない。原発を止めても、巨大地震や津波が来れば、恐ろしい状況が生じる可能性はあるのだ。現存の原発を都合よく処分してしまうことはできないのだが、反対派にはそれがわからないらしい。あるいは、わからないふりをしているのだろう。

原発反対派の人たちも賛成派（あるいは非反対派）の人たちも日本語を話してはいるが、そ

の日本語が実質的な話合いの役には立たなくなっている。消費税増税に関する議論も同じだ。民主党は長い間議論していたが、実質的な進展はなく、最後まで堂々巡りだったようだ。TPPや普天間基地の移設に関しても、同じことが起きるだろう。

人々の意見が分かれて、物事を決めることができない状況は、日本でとくに顕著だが、世界中で似たようなことが起きている。アメリカでは、オバマ政権になってから、ようやく国民皆医療保険制度ができたが、これには根強い反対がある。この制度は憲法違反だと主張する人たちが訴訟を起こしていて、オバマ政権にマイナスの判決が出る可能性もあるらしい。反対の理由は、普通の日本人には到底理解できないものだと思う。

言葉が通じないということから思い浮かべるのは、旧約聖書の創世記に出ているバベルの塔のことだ。新共同訳には、次のように書かれている。

『世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。（中略）彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。（中略）彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。主は降って来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、言われた。「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げる

ことはできない。我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」』

旧約聖書では、神が人々の言葉を混乱させ、互いの意思疎通ができなくしたことになっている。これは、人類の知識や技術が発達すると、人々の間で話が通じなくなる現象が生じることを示唆しているようだ。

20世紀には、科学上の大きな発見が多数あったが、あとあとまで人類に大きな影響を及ぼすものは、核エネルギーの発見とDNAの2重らせん構造の解明だろう。前者の上に築かれた原子力工業(核兵器製造を含む)と、後者に端を発して現在も急速に進展している遺伝子工学と関連技術は、古くからの考え方からすれば、人間が神の領域に踏み込むものだ。このような状況下では、人々の間に言葉はあっても実際には通じないという現象が生じてくるのではないか。どうしてそうなるのか、それがどういう結果をもたらすのか、私にはわからない。

16世紀オランダの画家ブリューゲル (Pieter Bruegel, 1526/1530–1569) が描いたバベルの塔の絵はよく知られている。ブリューゲルはこの題材で幾つかの絵を描いたようだが、私はウィーンの美術史博物館にあるものを見たことがあり、その複製を持っている。この博物館の売店で買った壁掛け用の小さなものだが、ウィーンの有名な美術書店 Wolfrum 製だ。

この絵は、他のブリューゲルの絵のように16世紀ヨーロッパの人々の生活を緻密に描いたものではなく、どちらかというと、見ていて気持ちの良いものではない。この絵については、多くの評論家がいろいろと論じているらしいが、私が読んだのは中野孝次著「ブリューゲルへの旅」

(文春文庫) だけだ。中野は「傲慢(ヒュプリス)」という章のなかで、この絵について語っており、この絵は、人間の傲慢さをとがめる目的をもつものとしている。

ところで、バベルの塔の「バベル(Babel)」とはどういう意味なのだろうか？これについての旧約聖書の記述はスッキリしていない。とくに、新共同訳聖書の記述には誤植があると私は思っている。仮に誤植を訂正しても、わかりやすい文章になるとは思えない。バベルの塔に関する新共同訳の言葉が混乱しているのはまことに皮肉なことだ。

私の手元にある英語の聖書 (Oxford University Press と Cambridge University Press が1989年に共同で出版した“The Revised English Bible”)には、先に引用した新共同訳聖書の文章に相当する箇所後に、次のように書かれている。

That is why it is called Babel, because there the Lord made a babble of the language of the whole world.

つまり、神がその地において全世界の言葉をわかりにくいもの(バブル, babble)にしたので、その地をバベル(Babel)と呼ぶことになったというのだ。英語の babble と Babel の発音は近いかもしれないが、私は何か納得できないものを感じている。旧約聖書の原語は古ヘブライ語またはアラム語のはずだが、それらの原語ではどう書いてあるのだろうか。これは興味のあることだが、残念ながら、私にはそこまで調べる能力はない。(おわり)